

【論文】

インターネット上の災害時「外国人犯罪」の流言に関する研究  
 ——熊本地震発生直後のTwitterの計量テキスト分析——

曹 慶 鎬

1 はじめに

本論文は災害発生時にインターネット上に現れた「外国人犯罪」に関する流言の特徴の把握を試みるものである。取り上げる事例は2016年熊本地震におけるTwitter上でのやりとりである。

2016年4月16日の『東京新聞』朝刊によると、熊本地震が発生して間もなく、「熊本の朝鮮人が井戸に毒を投げ込んだぞ」というツイートが見られたという。同記事では、これを関東大震災の模倣デマと指摘している。またコリアンだけでなく中国人に関しても類似のデマが見られたという。このようなデマの悪質さを指摘するとともに、注意を喚起する報道は、『産経新聞』Web版にも見られる<sup>1)</sup>。

そもそも災害発生時に流言は多かれ少なかれつきものであるという(廣井 1991: 144)。実際、2011年の東日本大震災においても、「外国人犯罪」の流言が被災地の住民の間で広くみられたという指摘がある(郭 2017)。郭基煥の調査によると、東日本大震災で流れた「外国人犯罪」に関する流言では、その「犯罪」の主体は中国人やコリアン、そしてアジア系と主に想定されていたという(郭 2017: 195-197)。やはり外国人のなかでもアジア系、特に中国人やコリアンが焦点になっていたようだ。

だが昨今は、災害発生時の流言はインターネットを通して被災地以外の人々にも瞬時に拡散されるようになってきているという(荻上 2011)。インターネット上の流言の特徴の一つは、それが必ず

しも被災地の人々の間で流れているとは限らない点にある。災害発生から間もない時点に限っていると、ライフラインが破壊されることによって、しばしば被災地の人々がインターネットにつなぐりにくい状況に陥りがちなことを考えると、被災地以外の人々の間で流言がやりとりされている可能性が一層高い。

そもそも災害発生時に限らず、平時においても現在の日本のインターネット上では、コリアンや中国人を対象にした民族偏見が問題になっている。それを踏まえると、熊本地震が発生した際に、コリアンと中国人をターゲットとした民族偏見をはらんだ流言がインターネット上で流れたことはなんら不思議ではない。

このようなインターネット上における民族偏見に関する先行研究として、本論文と同様に、Twitterを取り上げた高史明(高 2015a, 2015b)の研究がある。高はTwitter上のコリアンや中国人に関する民族偏見を、古典的レイシズム(Old-fashioned Racism)と現代的レイシズム(Modern Racism)に区分している<sup>2)</sup>。ここでいう古典的レイシズムは道徳的または能力的に劣っているという信念に基づく古くから存在する偏見である。現代的レイシズムは、「不遇な状況にあるのは当事者の努力不足にもかかわらず、その状況を脱するためにもあつた差別の存在を主張し、結果的に不当な利益を享受している」といった類の偏見である<sup>3)</sup>。高は、日本のTwitterにおけるコリアンに対する民族偏見には、両者が併存していると指摘するだけでなく、現代的レイシズムが強ま

ることで、古典的レイシズムも再度強まりうることを示唆している（高 2015a: 46, 62）。高の研究を援用するならば、古典的レイシズムの再強化の延長線上に、熊本地震の発生時にTwitterで見られた関東大震災の模倣を位置づけることができると思われる。ただし、高の研究は災害発生時ではなく、平時を対象としている点を踏まえておくべきだろう。

だが、関東大震災をはじめとする歴史現象に関する言及が盛んになった理由の説明としてはこれだけでは不十分であろう。そもそもコリアンや中国人に関して偏見が特に集中していることについても考える必要がある。この点について参考になるのが、樋口直人による日本の排外主義に関する研究である（樋口 2014）。樋口は「日本型排外主義とは近隣諸国との関係により規定される外国人排斥の動きを指し、植民地清算と冷戦に立脚するもの」（樋口 2014: 204）と述べたうえで、排斥感情の根底にあるのは近隣諸国との歴史的関係であると指摘している。この指摘は、現在の日本においてコリアンや中国人が偏見の対象として特に取り上げられる理由の有力な説明になる。関東大震災および当時の虐殺は、災害をめぐる問題にとどまらず、近隣諸国との歴史的関係と深く関わる歴史認識の争点の一つでもあるため、現代の災害発生時において言及の対象となるのではなかろうか。ただし、樋口の考察はインターネットも視野に収めているが、排外主義運動の参加者のインタビューデータに主に基づくものであることには注意が必要である（樋口 2014: 117-140）。

本論文では、このようなインターネット上の民族偏見と日本の排外主義に関する先行研究を踏まえたうえで、実際に熊本地震が発生した直後のTwitterデータを取得し、コリアンおよび中国人に関する言及を中心に分析を行っていく。なお流言研究においては、流言とデマを区別する立場（廣井 2001: 29）もあるが、本論文では扱うデータの性質上、流言とデマを厳密に分節することが難しいことから、両概念の違いにはこだわらない

こととする。ただし、該当ツイートにおいてデマと主張されている場合等は「デマ」と表記する。

## 2 分析手法とデータ

### 2.1 分析手法

本論文で分析の対象とするツイート群は、膨大な量のテキスト型のデジタルデータ（コーパス）である。テキスト型のデジタルデータが蓄積され、その分析を目的とした利用が可能となった現在、コンピューターを用いたいわゆるテキストマイニングが盛んに行われるようになってきている。一方、それ以前より社会学の周辺には文書や音声といった質的データを分析する内容分析（content analysis）という手法が存在する。本論文が採用する計量テキスト分析は、テキストマイニングの発展を踏まえ、計量的手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析を行う方法とされる（樋口 2014:15）。

この手法の最たる特徴はコーディングの活用の仕方と思われる（樋口 2014: 17-19）。従来の内容分析で見られたような、分析者がコーディングルールを定めて用いることは、分析者の問題意識に沿った分析を容易にする反面、分析者の仮説に都合のよいように分析結果が歪められかねない弊害がある。それを、コーディングルールの作成に先立ち、テキストマイニングで一般的な多変量解析によるデータ全体の要約を提示するという手順を踏むことで補っている。そのうえで作成されたコーディングルールを明示することで、方法の信頼性の向上にも役立つ。

本論文で扱う膨大な量のツイートの分析にこの手法を用いることで、語彙の整理と分析に留まるのではなく、その語彙が織りなすことによって生成される意味内容の検討を容易に行うことが可能となるだけでなく、方法の信頼性も確保されると思われる。なお、本論文で計量テキスト分析を行うにあたって、分析ソフトはKHCoder（ver. 2.00f）を、形態素解析エンジンはMecab（ver.

0.996) を利用した。

## 2.2 データ

本論文では株式会社ユーザーローカル (<http://www.userlocal.jp/>) に依頼して取得した Twitter データを利用している。取得対象期間は熊本地震が発生した 2016 年 4 月 14 日 (0 時) から 4 月 21 日 (24 時) までであり、日本語でのツイートを対象とした。全ツイートを取得するのは困難であったため、先行研究 (高 2015a, 2015b) を参考に「熊本 OR 地震」かつ「外国人 OR 外人 OR 中国 OR 中華 OR チャイナ OR シナ OR 支那 OR 在日 OR チョン OR 韓 OR 朝鮮」というキーワードの組み合わせに該当するツイートを取得した。データ取得作業時期は 2017 年 2 月である。

結果、全体で 83,774 ツイートが取得された (表 1)。注意が必要なのは本論文の条件に合致するツイートの全てが取得されたわけではないことである。地震から 1 年近くが経ってデータ取得作業を行ったことなどがその理由である。株式会社ユーザーローカルの推計によると、本論文の条件に合致するツイートの総数は本来ならば 145,925 件であり、そのうちの 57.4% が取得されたことになる。条件に合致するツイートの全てではないという限界があるが、本論文では取得された 83,774 件のデータを利用して分析を行っている。

## 3 分析

### 3.1 ツイートとアカウントの概要について

抽出されたツイートの総数は 83,774 件であり、総アカウント数は 48,054 である (表 2)。対象期間の 1 アカウント当たり平均ツイート数は 1.7 件である。ツイート数が少ない順にアカウントを並べたうえで、総ツイート数の 25%、50%、75% を超えるところで層を区切った。そのうえで 1 アカウント当たりツイート数が少ない層から、「最下位 1/4」、「下位 1/4」、「上位 1/4」、「最上位 1/4」と名付けた<sup>4)</sup>。層ごとにみていくと、全体の 3.8% にすぎない 1,834 のアカウントが、全体の 25.0% を占める量のツイートを投稿していることがわかる。一方で、この間にこのテーマで一度しかツイートしていないアカウントが 75.4% を占めている。アカウント毎でツイートの分量にばらつきがあることは、先行研究における指摘と共通する (高 2015a: 32-33)。

ツイートには、投稿者本人が独自の内容を発信するものと、既に発信済みのツイートを転送するリツイート (RT) に大別できる。本論文では、ツイートデータの冒頭に「RT@ (元の投稿者のアカウント)」とあったものをリツイートと識別した。そのうえで 1 アカウント当たりのツイート量で区切ったアカウント層ごとの特徴をみていく

表 1 ツイート数の概要

	推計ツイート数	取得ツイート数	取得率
04/14 (木)	4,575	2,479	54.2%
04/15 (金)	27,747	15,711	56.6%
04/16 (土)	32,856	18,158	55.3%
04/17 (日)	24,063	13,967	58.0%
04/18 (月)	18,482	11,483	62.1%
04/19 (火)	13,357	7,888	59.1%
04/20 (水)	13,518	7,674	56.8%
04/21 (木)	11,327	6,414	56.6%
全体	145,925	83,774	57.4%

推計ツイート数は株式会社ユーザーローカルによる推計

(表3)。まず、ツイート量が少ない層ほど、取得データ内ではRTしかしていないアカウントの比率が増えていく。ツイート量の多い「最上位1/4」のうちリツイートしか行っていないアカウント(902)の割合は49.2%であったが、ツイート量が最も少ない「最下位1/4」では82.9%のアカウント(38,011)がリツイートしか行っていない。だが実際のツイート数でみると、ツイート量が少ない層ほどリツイート率が増えるとはいえ、「最上位1/4」(73.3%)と「最下位1/4」(82.9%)との間にそこまで大きな差はなかった。ツイート量が多い層でも、発信ツイートよりもリツイートの方が多いためである。

### 3.2 計量テキスト分析

#### 頻出語の分析

ここからは計量テキスト分析の結果を記していく。まずはツイートのなかで出現回数が多かった単語について述べる。ここでは「韓」などの漢字1文字で複合語に用いられるものを除いた名詞および解釈可能な文字列のみの上位30件と、それを含むツイート数を示している(表4)。

まず「地震(63,165)」、「熊本(55,810)」、「九州(6,510)」、「災害(6,474)」、「震度(5,979)」、「発生(5,775)」といった熊本における地震災害の発生に関わる単語が見える。また「被災(15,669)」、「支援(9,772)」、「救援(5,236)」、「避難(5,024)」といった被害と支援に関する単語がある。

上記が地震と被害に関する単語だとしたら、国

表2 ツイート数とアカウント数の概要

	アカウント数		ツイート数		1アカウント当たり 平均ツイート数
	度数	相対度数	度数	相対度数	
最上位1/4	1,834	3.8%	20,945	25.0%	11.4
上位1/4	4,104	8.5%	14,819	17.7%	3.6
下位1/4	5,894	12.3%	11,788	14.1%	2.0
最下位1/4	36,222	75.4%	36,222	43.2%	1.0
総数	48,054	100.0%	83,774	100.0%	1.7

表3 ツイートの種類

	RTのみアカウント		全アカウント	
	RTのみ アカウント数	RTのみ アカウント率	RT数	RT率
最上位1/4	902	49.2%	15,351	73.3%
上位1/4	2,723	66.3%	11,825	79.8%
下位1/4	4,356	73.9%	9,447	80.1%
最下位1/4	30,023	82.9%	30,023	82.9%
総数	38,004	79.1%	66,646	79.6%

「RTのみアカウント率」は「RTのみアカウント数/アカウント数」

「RT率」は「RT数/ツイート数」

「アカウント数」と「ツイート数」は別表(表1)より

表4 頻出語とツイート数

	単語	ツイート数		単語	ツイート数		単語	ツイート数
1	地震	63,165	11	デマ	8,612	21	韓国人	5,329
2	熊本	55,810	12	お祝い	8,053	22	毒	5,294
3	中国	29,056	13	ニュース	7,578	23	政府	5,254
4	日本	28,003	14	日本人	6,926	24	井戸	5,251
5	在日	16,506	15	米軍	6,547	25	救援	5,236
6	外国人	16,088	16	九州	6,510	26	避難	5,024
7	被災	15,669	17	災害	6,474	27	活動	4,771
8	朝鮮人	13,953	18	震度	5,979	28	心配	4,610
9	韓国	13,834	19	発生	5,775	29	失礼	4,602
10	支援	9,772	20	朝鮮	5,353	—	まじ	4,602

や民族に関わるものとして、「中国 (29,056)」、「日本 (28,003)」、「在日 (16,506)」、「外国人 (16,088)」、「朝鮮人 (13,953)」、「韓国 (13,834)」、「日本人 (6,926)」、「米軍 (6,547)」、「朝鮮 (5,353)」、「韓国人 (5,329)」といった単語がある。このうち本論文のテーマにとって重要なのは中国とコリアに関する単語である。

さらに本論文のテーマと関連するものとして、「デマ (8,612)」、「毒 (5,294)」、「井戸 (5,251)」である。これはコリアンが「井戸に毒」を入れているという流言の発生と関わる単語である。たとえば以下のようなツイートである。

朝鮮人が井戸に毒を投げ入れ回ってるようです!!! 熊本県民の皆さんは自警団を組織して自己防衛に努めてください!!! 朝鮮人かの区別には「がぎぐげご」と言わせてみればわかります!!! #拡散希望 #防災 #地震 #nhk (2016/4/14 22:50:08 ツイート)

一方、「デマ」という単語は、上記とは逆に外国人の「犯罪」情報は「デマ」とであると告発するツイートで多く使われている。以下のようなものがある。

熊本の地震の件で、朝鮮人が井戸に毒入れているとかいうデマ流してるやつ全員くたばれ。(2016/4/14 22:43:19 リツイート)

これは一連の外国人による「犯罪」というツイートが「デマ」とであると主張する内容であるが、「井戸」および「毒」という単語を含んでいる。このように「犯罪」に関する頻出語は、「犯罪」の存在を主張するツイートと、それを否定するツイートの両方で使われているため、頻出語からツイートの内容を推測するには注意が必要と思われる。

自然災害と内容的にそぐわないものが「お祝い (8,053)」である。これは「中国やコリアが熊本での地震発生にともなう日本人住民の被害を祝っている」といった類のツイートで主に見られた。その一つが、次のようなツイートである。

これを見てもあなたは韓国、中国が好きでいられますか？ 私は日本の国旗を踏んだり、大地震をお祝い？ まじで嫌いです。被災地の方々にとっても失礼だと思います。僕は断固韓国、中国を嫌います。韓国と中国を許さない人RT (2016/4/14 0:12:58 リツイート)

取得されたデータではリツイート元を確認でき

ないが、このリツイートは4,576件あった<sup>5)</sup>。類似の内容のツイートはこのほかにも存在した。いずれにせよ被災地での出来事に関するツイートだけでなく、地理的に日本の外部にある中国や韓国を熊本の地震と結び付けるツイートも一定数存在したことがうかがえる。

### 分析に用いたコード

単語の出現頻度を踏まえたうえで、本論文の問題関心に沿ってコード別に分類し、ツイートのテーマを分析した(表5)。コードの作成にあたっては、頻出語とあわせて先行研究を参照している(高2015a, 2015b)。

コードは、それぞれの国や民族を表すものとして、「外国」、「中国」、「コリア」、「日本」を設定した。なお、エスニシティ研究やナショナリズム研究の知見を踏まえるならば、国家と国民と民族は分節されてしかるべきものであるが、実際のツイートの大多数でこれらは明確に区別されていなかったため、本論文でもその点は問わないこととした。

また頻出語の分析で明らかになった「お祝い」という単語を含めて「反日」コードとした。

「犯罪」コードには、先行研究を踏まえて関連する単語を含めたが、頻出語の分析を踏まえて「井戸」、「毒」といった被災地における「デマ」と関わる単語も含めた。また、分析に利用した

KHcoderは同一の単語を異なる分類に振り分けることができないため、上述のコードとは別に、「井戸」と「毒」に「関東大震災」を加えた「歴史」コードを作成し、別途分析を行うこととした。

### コード別の分析

コード別のツイート数と出現率を示す(表6)。「歴史」コードを除く)すべてのコードのいずれにもあてはまらないツイートは3,598件、出現率は4.3%である。本論文が利用したデータの特徴は相応に捉えているとみなせる。

「日本」以外の国や民族に関わるコードのなかでは、「コリア」が「中国」よりも出現率が高い。ただしこれはコードの作りに依存する部分が少なくないことに注意が必要である。

被災地での犯罪に関わるであろう「犯罪」に該当するツイートが10.1%であるが、日本に対して否定的なことを指摘する「反日」に該当するツイートは13.1%である。なお、この「犯罪」または「反日」のどちらかに該当するツイートは19,263件であり、出現率は23.0%に上る。

「歴史」に該当するツイートは全体のうちの8.2%である。その内容が「井戸に毒」という言葉に象徴される、関東大震災時の朝鮮人虐殺に関わる可能性が高いことを踏まえると、この値は決して小さくないと思われる。その上で、この「歴史」と他のコードとの重複率をみる。一番多いの

表5 ツイート分類コード

コード	分類に用いた単語
外国	外国、外人、外国人
中国	中国(「地方」は含まない)、中国人、中国語、中華、チャイナ、シナ、支那、シナ人、支那人、
コリア	韓国人、朝鮮人、在日(「米国」、「米軍」、「オスプレイ」は含まない)、チョン、韓国、朝鮮、韓、朝鮮語、ハンゲル
日本	日本、日本人、我が国、自衛隊
反日	反日、売国、売国奴、お祝い
犯罪	犯罪、事件、逮捕、悪事、凶悪、強姦、レイプ、犯す、誘拐、犯人、強盗、放火、暴動、暴徒、井戸、毒
歴史	井戸、毒、関東大震災

が「犯罪」の70.4%であり、次に「コリア」の16.6%である。関東大震災という歴史的事件は、「コリア」や「犯罪」への言及のなかで主に触れられると考えられる。

「コリア」と「歴史」の重複率に比べ、「中国」と「歴史」は低い。関東大震災では朝鮮人だけでなく、中国人、さらには日本人も虐殺されている(災害教訓の継承に関する専門調査会編 2008)。それにもかかわらず「中国」との重複率は0.7%にすぎない。

また、「歴史」と「犯罪」の重複率に比べ、「反日」との重複率は低く、0.3%にすぎない。関東大震災という歴史的事件は、日本の国内で起こったことであり、そのために日本国内の被災地でのものと関わるだろう「犯罪」とは関係が強いが、日本の領土外にある中国や韓国が強く念頭にあるだろう「反日」とは関係が弱くなっていると思われる。

### コード間の関係の分析

コード間の関係を把握していく。まずはJaccard係数を用いて、国や民族を表すコードと、「犯罪」および「反日」の関係を見る(表7)。Jaccard係数は0から1の値をとり、値が大きいほど関係が強いことを示す。これによると、「外

国」コードは「犯罪」および「反日」のどちらとも関係が弱いことがわかる。「中国」と「日本」は「犯罪」との関係は弱い、「反日」との関係が強い。もちろん「中国」と「日本」とでは、「反日」を行うのが「中国」であり、行われるのが「日本」といったように、意味が全く違うであろうことは容易に推察できる。最後に「コリア」は、「犯罪」および「反日」の両方と一定の強さの関係があることがわかる<sup>6)</sup>。

これを踏まえたうえで、Jaccard係数を用いた共起ネットワーク図を示す(図1)。「犯罪」および「反日」との関係が弱かった「外国」を除外したうえで、残りの5つのコードがネットワーク図に登場するために必要な上位6本のパスを引いた<sup>7)</sup>。数値はJaccard係数であり、パスの太さは共起関係の強さを表す。各コードの円の大きさは出現頻度を表すが、コード間の距離に意味はない。

これを見ると、ツイートが大きく二つのテーマの圏域に分かれるが、そこに関わる国や民族には違いがあることがわかる。一つ目のテーマの圏域は、「反日」と関わる「日本」と「中国」および「コリア」で構成されている。主な含意としては、「日本」に対して「反日」的な「中国」および「コリア」ということになるだろう。

もう一つの圏域が「犯罪」と「コリア」である。

表6 コード別出現ツイート数と出現率

	コード別ツイート		「歴史」重複ツイート	
	ツイート数	出現率	重複ツイート数	重複率
外国	17,215	20.5%	383	2.2%
中国	30,775	36.7%	203	0.7%
コリア	38,962	46.5%	6,456	16.6%
日本	35,955	42.9%	963	2.7%
反日	10,939	13.1%	32	0.3%
犯罪	8,483	10.1%	5,974	70.4%
歴史	6,894	8.2%	-	-
総数	83,774	100.0%	6,894	8.2%

「重複率」は「重複ツイート数/ツイート数」

表7 主要なコード間の関係

	犯罪	反日
外国	0.04	0.00
中国	0.01	0.28
コリア	0.19	0.20
日本	0.04	0.24

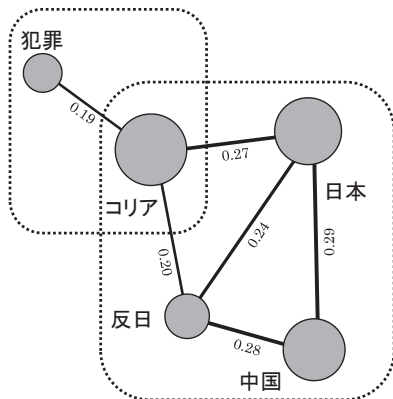


図1 上位6本の共起ネットワーク

ここでいう「犯罪」は被災地におけるものであり、それはコリアンによるものという内容のツイートと思える。だが、頻出語の分析でみたように「デマ (8,612)」という単語があったことを考えると、注意が必要である。「デマ」という言葉が含まれているツイートのうちのいくつかは、コリアンが被災地で「犯罪」に関わっているという情報は「デマ」であるという内容である可能性がある。

そこで「犯罪」コードに該当するツイートの中身をみていくことにする。「犯罪」コードに該当するのは8,483ツイートであるが、そのうち「コリア」コードにも該当するのは7,629ツイートであった。「犯罪」コードに該当するツイートのうち89.9%が「コリア」コードにも該当するということ自体、「犯罪」と「コリア」のテーマ的近接性がうかがえる。

そのうえで、この両方のコードのどちらにも該当する7,629ツイートのうち、200ツイートを無

表8 「犯罪」と「コリア」に該当するツイートの内容

	度数	相対度数
「犯罪」の横行	26	13.0%
「デマ」の告発	128	64.0%
その他	46	23.0%
合計	200	100.0%

作為に抽出し、その内容を見ていった(表8)。被災地においてコリアンをはじめとする外国人による「犯罪」が横行しているという内容は13.0%であった。一方、それよりもはるかに高い64.0%を占めたのは、そのような情報は「デマ」であると告発する内容のツイートであった。複数のメディアで報道されているように、外国人「犯罪」の横行を主張するツイート、それもコリアンが被災地の「井戸に毒」を入れているといった類のものが存在したことは明らかだ。だが、それらが「デマ」であると告発するツイートの方が多かったことが確認される。

いずれにせよ日本国内の被災地での「犯罪」というテーマと、日本とその外部に存在する中国や韓国を想定しているだろう「反日」というテーマに分けたら、その両者に「コリア」が関わっているということは重要な点かと思われる。「反日」を主な理由とした「嫌韓・嫌中」という言葉に象徴されるように、日本社会では排外主義の対象として、しばしば韓国と中国が並んで取り上げられるときがある。もちろん、本論文の分析でも「反日」というテーマと「中国」と「コリア」の両方が一定の強さの関係を結んでいるので、大勢として「嫌韓・嫌中」という現象の存在がうかがえる。一方で、「反日」とは別に、「犯罪」というテーマの圏域があり、かつ「反日」と「犯罪」の両方の圏域に関わるのは「コリア」のみなのである。

また「犯罪」ツイートのうち、実際に「井戸に毒」をコリアンが投げ込んでいるといった内容のものもあったが、それを「デマ」と告発するツ



イートの方が多かったことはすでに述べた。ただし、たとえそうだとした場合、「コリア」（および「中国」）に関して否定的に言及しているであろう「反日」に該当するツイートも多数存在したことに留意する必要がある<sup>8)</sup>。

#### 4 結論と考察

本論文で明らかになったことをまとめる。熊本地震の発生に際して、Twitter上でコリアンや中国人に関するツイートが一定数見られた。それは、被災地におけるコリアンによる「犯罪」だけでなく、コリアンや中国人による「反日」というものも含んでいた。ただし、「反日」に強く関わるのは中国とコリアンの両方であるが、「犯罪」に強く関わるのはコリアンのみであった。

「犯罪」は主に被災地におけるものという意味で日本国内の問題であるのに対し、「反日」は日本国内でのものもあるが、それとは別に、日本の領土外である韓国や中国での動きという意味で、日本の国外と関連する問題である。このような中国とコリアンに関する言及の違いが生じる理由を、本論文で利用したデータの分析だけから明確にするのは難しい。だが、他のインターネット媒体では、中国はその国力の増大と関連して警戒の対象として見られるのとは比べ、コリアンは侮蔑の対象として見られている傾向があり、しかも侮蔑の内容は「不正」に日本国内で暮らしているといった、現代的レイシズムと表現されるようなものであるという指摘がある（曹 2017）。これを参考にすると、中国人に比べてコリアンは「内なる他者」という性格がより強いがゆえに、日本国外の問題でもあり、かつ日本国内の問題としても言及されている可能性がある。

また、「井戸に毒」といった、関東大震災時の朝鮮人虐殺を連想させる内容を含むツイートが一定数見られた。本論文で利用したデータは限られた期間のものなので長期的な変化について正確に述べることはできない。だが、現代的レイシズム

の隆盛にともなう古典的レイシズムへの再注目という高（高 2015a）による示唆を踏まえると、関東大震災をはじめとする歴史的現象への言及が増加した結果という可能性はある。実際、インターネット以外でも、関東大震災に関する歴史認識について、政治家も巻き込んで綱引きが行われている<sup>9)</sup>。Twitterにおける関東大震災を連想させるツイートの登場は、一連の社会的な動きと連動していると考えられる。

このような動きは、日本の領土外にある韓国や中国に対する否定的言及と合わせて考える必要があるだろう。中国と韓国を指して「反日」と非難するツイートの流布は、日本における外国人排斥の根底に、近隣諸国との歴史的関係があると指摘する樋口（樋口 2014）の主張と親和的である。そもそも関東大震災への言及も、近隣諸国との歴史的関係に関わる歴史認識をめぐる問題の一つと位置付けられるものである。

その一方で歴史認識問題におけるコリアと中国の扱いの違いは、時折の排外的言説にも違いを生み出すと思われる。たとえば関東大震災では、朝鮮人だけでなく、中国人、そして日本人も虐殺されたが、犠牲をめぐる議論の対象は朝鮮人になりやすい嫌いがある<sup>10)</sup>。その延長線上で熊本地震に際して、関東大震災という歴史認識をめぐる問題と深く関わるコリアンが、被災地における外国人「犯罪」に関わるものとして主に言及される一方で、中国と共に日本に害をなす「反日」的存在としてクロウズアップされたのだと思われる。

最後に「犯罪」に限ると、そのような情報を「デマ」として批判する動きがネット上にあったことをあらためて指摘しておく。本論文が利用したデータの範囲に限ると、外国人（特にコリアン）による「犯罪」を主張するツイートよりも、それを「デマ」として告発するものの方が多かった。確かに、多くの論者が指摘しているとおり昨今の差別扇動の隆盛にインターネットが大きく関連していると思われる（たとえば安田 2012; 樋口 2014）。だが、それに対して、インターネット上

で対抗する声が上がっていることがデータ分析で確認されたことも重要な知見であろう<sup>11) 12) 13)</sup>。

## 付記

本論文はJSPS科研費 16K13189「新デジタルメディア時代におけるソーシャル・デザインのためのデータ利活用研究」(代表:和田伸一郎・立教大学社会学部准教授)の助成を受けたものある。

## 注

- 1) 『産経ニュース』2016年4月12日 <http://www.sankei.com/affairs/news/160415/ afr1604150040-n2.html> (2017年12月17日最終アクセス)
- 2) 現代的レイシズム (McConahay 1983) の他に同種の言葉として象徴的レイシズム (Sears and Henry 2005) があるが、本論文では現代的レイシズムで統一する。両用語の関係については高を参照 (高 2015a: 12-16)。
- 3) いわゆる「在日特権」はその典型である。
- 4) 四分位とは異なる区分である。四分位で区切ると特定の分位にあまりにも多くのツイートが含まれてしまうからである。
- 5) 取得データ内で確認できる最後のリツイート (2016/4/21 23:46:27) では、21,515 件のリツイートがあったことが示されている。
- 6) 「井戸、毒」を除いた修正された「犯罪」コードだと、Jaccard係数は「中国」とは0.01、「コリア」とは0.07となる。修正前と比較すると「中国」との数値はほぼ変わらないが、「コリア」とは小さくなる。だが、それでも「コリア」との数値の方が「中国」とのものより大きいことには変わりはない。
- 7) コードの作成方法の都合上、「歴史」コードはこの分析には含まれない。
- 8) コード別の出現頻度はコーティングルールに左右されるが、それを差し引いても、「反日」に該当するツイートが一定数存在したことは明らかである。
- 9) 関東大震災の朝鮮人虐殺を否定するものとして、工藤美代子と加藤康男 (工藤 2009 →加藤康男 2014) による著作がある。この二つの本の関係は、当初は工藤名義で発表された著書が、文庫化に際して加藤名義に変更されたものである。また政治家の動きとしては、2017年に小池百合子・東京都知事が関東大震災の朝鮮人追悼式への公式文書を

送るのを取りやめたことも話題になった。一方、朝鮮人虐殺を歴史の教訓として繰り返さないことを主張するものとしては加藤直樹 (加藤直樹 2014) のものがある。

- 10) 関東大震災における虐殺を否定する著作のタイトルおよびサブタイトルには、しばしば否定の対象として「朝鮮人虐殺」という文字が躍る。上述の工藤と加藤の著作はその一例であるだけでなく、当初の単行本では「朝鮮人虐殺」の真実」というサブタイトルだったが、文庫化に際して「朝鮮人虐殺」はなかった!」といった、否定論という書籍の性格がより直截的に表明されるものに変更されている (工藤 2009 →加藤康男 2014)。
- 11) 2016年4月16日の『東京新聞』朝刊によると、主に2013年以降、排外主義デモと対峙し、批判を浴びせてきた人々が、熊本地震に際してもインターネット上でデマの批判に率先して動いていたという。実際、本論文が利用したデータでも、「デマ」と告発する人々のアカウントの少ないものが、路上でも批判活動を繰り返していた人々のものであることが確認されている。
- 12) 熊本地震の発生よりも前に、排外主義デモを批判してきた人々のなかには、関東大震災を教訓として参照する者もいた。加藤直樹 (加藤直樹 2014) の著作もその過程で生み出された。このような動きの影響もあってか、本論文で扱ったデータにおいても、「デマ」と批判するツイートのうちの少なくないものが、教訓として関東大震災に触れている。
- 13) インターネット上の災害時流言と被災地との関係について補足する。ただでさえ災害時流言は、被災地および被災者の困難を大きくするものである。それにもかかわらず、仮にインターネット上の流言の多くが、被災地以外の人々によるものならば、それは非災害地域から被災地への困難と混乱の押し付けとなるだろう。「デマ」を告発する動きは、外国人に対する偏見の是正というだけでなく、このような非災害地域によって生み出される被害を抑制する動きでもあると指摘できる。

## 参考文献

- 曹慶鎬, 2017, 「“Yahoo!ニュース”の計量テキスト分析——中国人に関するコメントを中心に」 駒澤大

- 学文学部『駒澤社会学研究』49号: 115-135.
- 原尻英樹, 1998, 『「在日」としてのコリアン』講談社.
- 樋口耕一, 2014, 『社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版.
- 樋口直人, 2014, 『日本型排外主義——在特会・外国人・参政権・東アジア地政学』名古屋大学出版会.
- 廣井脩, 1991, 『災害情報論』恒星社厚生閣.
- , 2001, 『流言とデマの社会学』文藝春秋.
- 郭基煥, 2017, 「震災後の「外国人犯罪」の流言」『震災学』東北学院大学Vol. 10: 184-227.
- 加藤直樹, 2014, 『九月、東京の路上で』ころから.
- 加藤康男, 2014, 『関東大震災「朝鮮人虐殺」はなかった!』ワック株式会社.
- 工藤美代子, 2009, 『関東大震災「朝鮮人虐殺」の真実』産経新聞出版.
- McConahay, John B., 1983, Modern Racism and Modern Discrimination: The Effects of Race, Racial Attitudes, and Context on Simulated Hiring Decision. *Personality and Social Psychology Bulletin*, Vol. 9 (4) : 551-558.
- 荻上チキ, 2011, 『検証 東日本大震災の流言・デマ』光文社.
- 災害教訓の継承に関する専門調査会編, 2008, 『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 1923 関東大震災【第2編】』内閣府.
- Sears, David O. and Henry, P. J., 2005, Over Thirty Years Later: A Contemporary Look at Symbolic Racism. Mark P. Zanna ed., *Advances in Experimental Social Psychology*, vol. 37: 95-150, San Diego, California: Elsevier Academic Press.
- 高史明, 2015a, 『レイシズムを解剖する——在日コリアンへの偏見とインターネット』勁草書房.
- , 2015b, 「日本語Twitterユーザーの中国人についての言説の計量的分析——コリアンについての言説との比較」神奈川大学人文学研究所『人文学研究所報』53: 73-86.
- 安田浩一, 2012, 『ネットと愛国——在特会の「闇」を追いかけて』講談社.